

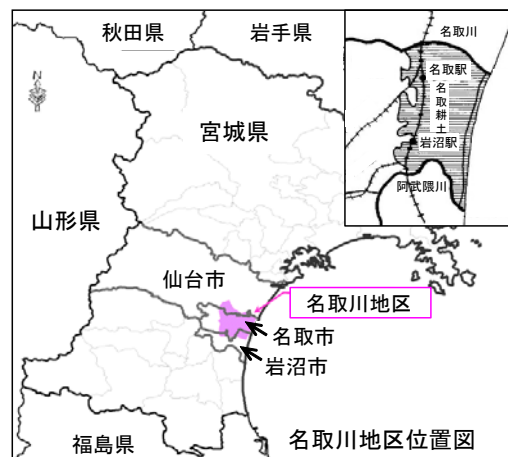
「水土を守る人々」では、農業や農業用水の役割とこれらが持つ多面的機能等が十全に発揮されていくために、農業水利施設等の維持管理を支える人々の日常にスポットを当てて、その取り組みを紹介することで、農業農村整備や多面的機能の発揮が「人」の支えの上に成り立っていることを伝えていきます。
※不定期で掲載いたします。

「農業水利施設の管理を通して、農村や地域の発展・安全に貢献したい」

～名取土地改良区土地改良区管理課 仙石覚管理係長～

宮城県名取市

今回「水土を守る人々」で紹介するのは、水土里ネット名取（名取土地改良区）に勤務する管理課管理係長の仙石覚さん。名取川地区は仙台平野の南部に位置し、北は名取川、南は阿武隈川に囲まれた「名取耕土」と呼ばれる地域にある。水土里ネット名取は名取市、岩沼市、仙台市に広がる約3,600haの水田への用水施設と排水施設の管理等を行っている。この水土里ネット名取で施設管理や協議・調整を担当しているのが仙石係長である。

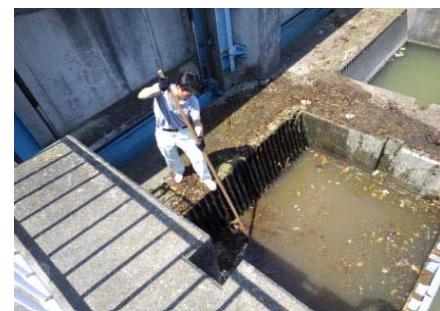


水土里ネット名取
管理課仙石係長

仙石係長は平成11年から勤務し今年で17年目。事務職員として採用されてから事業課に配属され、農地の転用、施設の保全、各種協議調整等を経験し、平成19年4月から管理係長として土地改良区管内の全ての施設管理を担当している。東日本大震災では昼夜を問わず率先して現場対応にあたり、組合員及び土地改良区の役職員からも厚い信頼を得ている。

1. 用水管理と排水管理

土地改良区にとって、ほ場への用水管理は最も重要な仕事である。「基本的な用水の分配は地域の営農状況を踏まえて土地改良区が管理しています。用水がほ場へ十分に供給されるように、かんがい期は毎日水路を巡回し、地域の水使用を確認しています。」と仙石係長は話す。



維持管理作業（排水機場ゴミ上げ）

「苦労が多いのは排水操作とそのタイミングですね。土地改良区に勤務したばかりの頃は、先輩方のように降雨量や降雨強度から経験的な判断で排水操作を行うことが難しく、また、夜に雨が降り続いている時は、いつ召集がかかるか緊張しながら窓を開けて就寝していました。現在はインターネットで気象情報が容易に得られるようになり便利になりましたが、地域開発の影響で排水量が増えたり、ゲリラ豪雨のように一定地域で集中して雨が降るなど、勤務したばかりの頃と比較すると水の出方が変化しているように感じます。地域に被害が生じないようにするためにも、迅速な排水操作を心掛け、状況に応じて緊急時の点検ルートを見直すなど細心の注意を払っています。」と語る。

2. 東日本大震災を経験して

「東日本大震災では上司の行動力や指導力に圧倒されました。それは幾つもの豪雨災害を経験し、災害はいつやってくるかわからないという常日頃の心掛けがあるからこそ、的確な判断と対応ができることを痛感させられました。」と仙石係長は話す。震災を経験して教訓となったことは何かとの質問に対し、「今回の震災を契機として、他の土地改良区と協力した災害時の訓練等をしっかりと行い、イザという時の施設管理に関する技術の経験を積んでいくことが重要と考えています。」と今後の意気込みを語った。

3. 職場の上司から

上司の佐々田管理課長は仙石係長に全幅の信頼をおいている。「仙石係長は本当に頑張ってくれています。通常の水排水施設の管理はもちろん、災害時の対応についても率先して現場にかけつけ、その姿は後輩の模範となっています。地域のこと、農家のこともよく勉強しています。時々、組合員から苦情がある場合もあるのですが、俺なんかよりしっかり



仙石係長(左)と佐々田課長(右)

対応してくれていますよ。」と佐々田管理課長は笑顔で話す。「土地改良区の中では彼はもう主力の職員ですが、常に学ぼうとする姿勢を持ち、組合員や土地改良区職員と協調性をもって接しているので、将来は土地改良区をしょって立つ人材になってもらいたいですね。」と佐々田管理課長は期待を込め、力強く語った。

4. 終わりに

今後の目標を尋ねると「施設管理を通じ、自分が小さい頃から親しんできた農業水利施設での事故を無くしたいと思っています。また、名取川地区は農地と住宅地

が混在しており、農業水利施設が市街地への降雨を排水し、水害から地域を守っています。また、非かんがい期に通水している維持管理用水は、地域の環境保全にも役立っています。今後も施設管理を通して、多くの地域住民の方に対してもこのような多面的機能が発揮されていることなどを含め、土地改良区の重要な役割を理解していただけるようしっかり仕事に取り組み、農村や地域の発展に貢献していきたいです。」と熱く語った。

【農村振興局整備部設計課・東北農政局整備部設計課】